

青森県の大同団結運動

河西英通

はじめに

近代日本史を考えるにあたって、自由民権運動は避けることの出来ぬ問題である。青森県の民権運動の場合、本多庸一・菊池九郎らが東奥義塾を拠点に共同会を結成、活動していたが、明治一四年暮から一五年にかけて反民権保守派の反撃、所謂弘前紛糾事件を境に窮地に陥り、翌年共同会は解散し、保守派全盛時代となることから、民権研究においては「低調」が指摘されてきた。⁽¹⁾

しかし、そうした停滞期⁽²⁾を狭む次のような事実も重視しなければならぬだろう。江村栄一氏の研究によれば、明治初年から一四年までの民権議院設立の建議・請願・建白件数は一四〇件、参加者は三一九、三四〇人を数える。うち、青森県は件数五件、参加者三、三二人と対全国比は一%前後にすぎないが、七一二年にかけての三一件中では青森関係は橋爪幸昌「民権議院之議」(七年四月二日提出)、諏訪内源司「起民権議院之議」(七年一月二五日提出)、佐野卓「官吏選挙法及代議士ヲ撰ニ裁判ニ決ノ期限ヲ定ルノ議」(二一年提出)の三件であり、

政府関係者及び不明分の六件を除き、江村氏が計上していない工藤寛蔵(のちの外崎寛、当時十七歳)の国会開設の建言を加えると二六分の四となる。これは全国一の数字である。

また対極的に、二二年五月の市制施行後初の弘前市會議員選挙では全議席三〇名を自由党系が独占し(初代市長にも菊池九郎が当選)、二三年二月の県議選の結果、定員三三名中二四議席を獲得、県会役員一一名中一〇名を占めるに至り、同年七月の第一回衆議院議員選挙では第一区から第三区まで全区(定員四名)で自由党が勝利している。全般的に東北地方は国会開設請願運動参加者・自由党員数の割りに自由党勢力が急速に伸張した地域と言われるが、第一回総選挙での自由党完勝という結果は東北地方では唯一であり、全国的にもほかに福井、高知、宮崎、鹿児島⁽⁴⁾の四県を数えるのみである。

以上の事実は青森民権運動の「低調」「歪み」といったものがたんに政治的後進性に解消されるものではなく、先進性と隣接・互換されうるものであることを教えている。この視点に立つ時、第一回衆議院議員選挙での勝利を準備した二二年以降の大同団結運動⁽⁵⁾の展開を分析することは、民権期の史資料(県庁文書、新聞、家伝史料等)が不足する中で、

事後的に青森民権運動を検証する作業にもなる。筆者は先に青森大同会の機関紙『東奥日報』（二十一年一月二二日創立、一二月六日創刊、社長菊池九郎、副社長小笠原宇八、編輯人関春茂）を素材に大同期の思想的背景を民権期の思想の延長上に位置づけたが、本稿でも主に同紙や統計資料を素材に大同団結運動の基本的資料を整理することで課題に接近したい。

民権運動終息後、明治二〇年代に入り、条約改正問題を機とした三大事件建白運動への参加も見られたが、⁽⁷⁾ 県政界の再活性化は二十一年八月の後藤象二郎の来県と「無神経事件」の発生をまつ。後藤はこの時弘前で東北遊説中最大の動員に成功し（八月四日柵木座、二五〇〇―二六〇〇人）、⁽⁸⁾ 弘前は予想外の早さで大同団結への第一歩をふみだすが、拙稿で指摘したように後藤来県は前年以来有志の間で相談されており、後藤の突然の来訪ではなかった。また、七月二八日付官報「府県事務並景況」欄の「本県ノ如キ稍々無神経ノ人民云々」に端を発した「無神経事件」の場合も、一六年九月一六日に盆灯籠の狂句「屁をへりて 臭みを知らぬ 津軽人」⁽¹⁰⁾ が原因で弘前裁判所所長官舎への若者達の集団投石事件が起こった様に、吏民協同・上下調和の官民一致的施政を願う県民感情の必然の反発であった。後藤が「無神経」発言を考慮していたかどうかかわからないが、「我々の希望する所は青森地方自治の一点にあり。自治にして全ければ地方の官吏も自ら弁すへし」（八月三日長勝寺）という演説が県内有志家への大きな刺激になった事は想像に難くない。

後藤の呼びかけに応じて、青森の大同団結運動も他府県同様、政治結社の結成と懇談会・演説会の開催を軸に展開するが、以下、政治結社、

懇親会・演説会、そしてそれらを支えた地方有志家の順で見ていきたい。

一、政治結社

当該時期の政治状況は「県下にて最も政治思想に富饒なる個処ハ弘前に過ぐるものなし、然れども弘前（津軽）の士族は在来暗々裡に二党派に分れて、這般の二党派中にも亦幾多の小部分に分岐すと聞けり、……津軽所在の人士は後藤伯の来遊を機会とし相共に同盟して伯を邀迎し伯の所謂旨義に同感を表示する者は、力めて相親睦和熟せざるべからず、然れども予輩の希望する処は此所に止まらず旧津軽藩士と旧南部藩士と親睦和熟せんことを欲する者なり」⁽¹¹⁾ と言われたが、九月一日、第一回青森県有志大懇談会が開かれ、津軽五郡を基盤に青森大同会が結成される。後藤来県時には回天社、博愛社、益友会の存在が確認されるが、以下のような政治結社が族生した（以下、特記しない限り、『東奥日報』の日付）。

・公同会（東津軽郡青森町大字大町一五一番戸村井方）

同会は二年七月二〇日白鳥鴻幹・煤田至誠を發起人に懇親会を開き、八月四日の役員選挙会で小笠原宇八を会長に選んだが、青森町有力者の加入が求められた。青森県立図書館蔵の伊東善五郎関係文書（滝屋文書）に依れば、小笠原は青森有数の豪商で東奥日報社常議員・株主の伊東に向かつて会の発起人もしくは賛成人を依頼しており、それは「大体ナラハ此際目ヲ眠り御了知相成度」という懇願であった（二十二年七月二〇日付書簡二通）。しかし、八月一日付『東奥日報』の公同会広告「会員及賛成員」

に伊東の名は見えず、小笠原は更に「追テ尊君方御発起ニモナク又賛成員ニモ無之候へハ他ヘ対シ面目ニモ相関」(二二年八月九日付書簡)ると追っている。

会は二三年八月一五日集会及び政社法改正により解散し、九月二一日東郡大同倶楽部として再スタートする。小笠原・徳差藤兵衛・西田林八郎・斎藤孚(東郡参事員)・千葉義平(原別村長)らが幹事であり、会の目的は次の三点であった。「第一帝国独立及内外政事に関する大権を鞏固にすること 第二財政を整理し民力の休養を謀ること 第三地方自治の制を完全にし及言論集会結社の自由を期すること」(二三年九月二三日付)。

・義友会 西津軽郡木造村を中心に二一年九月頃結成された同会は会則によれば「友誼親愛を主とし智識を交換し共同公益を謀り吾人の福利を増進する」を目的とし、廻堰村戸長役場所轄、桑ノ木田、木造、川除、兼館、沼崎、十三、車力、館岡、柴田、森田、越水の一二期に分けて組織された(二二年一月三日付)。役員は会長齋藤常太郎、幹事市田兵七・出町源蔵・渋谷從吾・葛西恭太郎・高谷慶次郎(木造村議)・藤田雄次郎であり、二三年八月一四日政社に改組している。

・益友会(南津軽郡黒石町大字前町四五番戸)

同会は二二年二月一八日黒石向陽軒に「会員百名余集会し同会の主義擴張の方法其他要件を決議し、且つ役員等をも撰定」している(二二年二月二八日付)。役員は会長榊喜洋芽、副会長加藤宇兵衛・鳴海久兵衛、幹事唐牛撫四郎であり、二三年八月九日の政社改組にもない事務所を黒石町市町大字一九番戸に移している。政社後の党議は次の通りである。

「一、立憲政体の原義に基き國務大臣の責任を明かにし信任投票及弾劾制の实行を期する事 一、国権を擴張し対等条約を締結する事 一、国費を節約し民力を休養する事 一、政府の干渉を省き地方自治の発達を図る事 一、税法を改正し会計検査院の独立を期する事 一、選挙権を擴張し、参政権を伸暢する事 一、新聞出版集会及政社法を改正し国民の元気を振作せしむるを勉むる事」(二三年八月一四日付)。

・博愛社(南津軽郡浪岡村大字浪岡一三五番戸三上準三郎方)

二二年二月現在の役員は社長不在、副社長工藤善太郎、幹事対馬堅司・前田喜一郎、書記西村勘十郎・三上弥助、会計山内直一・平野郡平であり、一月三日の総会議で一部改選。前田は大釈迦青年会(工藤清孝)と共同して博愛社青年会を發起している。政社は二三年一〇月頃であり、その主義は次の様であった。「第一条帝室の尊榮を謀り独立の権利を保全する事、第二条責任内閣の实行を期する事、第三条財政を整理し民力の休養を謀る事、第四条地方自治の制度を完全にすること、第五条言論集会結社の自由を期する事」(二三年一〇月八日付)。

・北郡大同会 北津軽郡五所川原村の同会は二二年四月一六日に発会式を開いた。中心人物は佐々木喜太郎・佐々木嘉太郎・高橋半右衛門(以上、五所川原)、石岡長幸(野里村)、三上源吉(赤田村)であり、事務所は五所川原の高橋嘉四郎方に置いた。

・弘前大同会(弘前市白銀町三番戸)

同会は弘前大同派の結社であるとともに、県下の中央組織でもあった。結成当初の中心メンバーは榊喜洋芽・菊池九郎・村谷有秀・奈良誠之助・石郷岡文吉らであり、彼らは二二年九月一日の第一回県有志懇で事務委

員あるいは出京委員に選ばれている。二二年二月二十五日の会議では分担金の徴集、会員の募集、事務委員の選挙などが議決されており（二二年二月二十七日付）、五月二二日の委員会には奈良誠之助が会の今後の方針として「大同会中に政会と国民会との二会を設ける事、大同会国事費と常費との方法の事、弘前大同会事務員と委員の責任の事、東奥日報と大同会の関係区別の事」を建議している（二二年五月二十八日付）。

また、大同会の組織体制をうかがえるのが六月一四日付の次の記事である。

「一、大同倶楽部常議員一名撰定すること
一、本会は各地適宜の方法を以て左の委員を撰定すること 但從來設置ある地方其依據置も妨なし

一、弘前市 一部二名宛 一郡 各郡三名宛

一、本会員の名簿を調整すること 但各地の会名を以て加入するものハ其会員数のみ記載して人名を略す

一、会員並寄附金募集の爲め左の委員を撰定すること

一、弘前市 各部二名宛 各郡 一郡三名宛

一、本会の経費は別紙の通総て有志者の寄附金を以て支弁すること
一、本会の経費は特に一名の委員を撰定して出納一切の事務を分担せしむること

東京の大同倶楽部へ派遣された常議員は榊喜洋芽・村谷有秀・工藤行幹（東奥日報社第二代社長、衆議院議員）・田中捨蔵であり、二二年五月一五日から二三年三月一〇日までの二九回の常議員会中、一七回に出席している。また、大同会の財政は表一の様であった。

・土曜会 二二年一〇月一九日結成の同会は八戸地方の大同派団体であり、幹事は奈須川光宝・源晟・浅水礼次郎、常議員は関春茂・夏目助太郎（浦山助太郎）・山口義勇らであった。二三年に刊行された郷土誌『向鶴』（中里忠香著、青霞堂刊）によれば「土曜会は八戸町塩町に、事務所を置き、会員百名以上、多く天保年代生れの大人にして、県議員、村長殿、田舎大尺様方町家の旦那衆なり、主義目的は、地方公共の利益を計るにあり」と言われた。政社化は二三年八月であり、その目的は「一、自由主義を取る事、一、帝国の独立及内外政事に関する大権を鞏固にすること、一、財政を整理し民力の休養を計る事、一、地方自治の制を完全にし及び言論集会結社の自由を期する事」であった（二三年八月一九日付）。

各郡を代表する以上の結社の他に次の諸団体があった。

・彰義青年協会（西津軽郡木造村一〇六番戸葛西末吉方）二二年五月二二日の創立で会長葛西末吉（協同会常議員、西郡大日本風俗改良会常議員）、幹事角田豊吉・藤田広七、書記藤田通雄・渋谷勘太郎（協同会書記、風俗改良会商議員）、編集員佐々木秀一（のち、三浦鶴吉）である。同会は演説会・雑誌発行を中心に活動した模様だが、五月三十一日付『東奥日報』の広告には「本会は政党宗派に非ずして知識を交換し道徳を維持し志気を活発にし進取の気象を養成し交誼心を鞏固にするを以て目的とする義会なれば苟も文明の空気を呼吸せんと欲する者は競て入会あれ」と見える。同会は青森支部も設け、青森町大字新町六七番戸三浦鶴吉方に事務所を置いた。

・協同会（西津軽郡木造村一〇六番戸葛西末吉方）二二年七月一六日に彰義青年協会と木造の壮年有志者とが結成した「親睦を旨とし自他の智識を増進する」（七月二十五日付）会で、会長は葛西恭太郎（地主、木造村助役、風俗改良会長）、副会長は藤田勇次郎（木造尋常小学校訓導、風俗改良会理事）、幹事は齋藤勇蔵・永沢俊八（木造尋常小学校訓導）、葛西柏之助（木造教育衛生会員）である。

・盈進社（中津軽郡藤代村革秀寺） 同社は社長長尾義連、副社長柳田治三郎（豪農、中郡徴兵参事員、私立産業会村落委員、柳田泉の父）、幹事佐藤昇一・小野貞助（農業、和徳村長、徴兵参事員、産業会村落委員、県農事諮問会員）・小島藤助・石戸谷弥左衛門・山崎太次馬であり、社員二〇〇以上を数えたが、更に「村長助役附属吏員其他村会議員ハ勿論苟も村内に名望ある人々を悉く入社せしめ社員七百名以上に満つる迄募集」することが計画され（二二年六月一日付）、同郡を和徳堀越、清水、相馬・東目屋・西目屋、岩木、大浦、船沢、高杉、裾野、新和の九区に分け社員募集に努めている。

・敢為青年会 八戸町の同会は湊要之輔・中里好誠・湊文（允カ）・鳥谷部虎太郎・織壁仙松・井河春次郎・小向怜一を委員に二二年九月結成され、「社会の弊風を掃尽する事、相互智識の交換を計る事、青年活潑敢為の氣質を養成する事」を目的にした（二二年九月二八日付）。前出『向鶴』は同会を「土曜会と同所において、土曜会を本山に仮令ふれば、尚ほ庵寺のごとし」とのべており、八戸警察署も集会及政社法の対象として土曜会とともに敢為青年会をあげている。

・東洋回天社 同会は弘前の木村喜代太郎を中心とする青年壮士の

団体であり、後藤来県を出迎えた奈良誠之助・石郷岡文吉らの回天社と同一のものであろう。同社の主義規則が国立国会図書館憲政資料室蔵の樺山資紀文書に収められている（文書番号一二二五）。それによると、同社は「広く有志ノ士ト協心戮カシテ大義ヲ闡明シ人心ヲ匡正ス勇敢剛毅ノ氣象ヲ養成シ干城敵愾ノ士風ヲ振興ス以テ大日本帝国ノ独立ヲ永遠ニ保持セン」ヲ務ム」を目的とし、文（討論・策題・講義）武（撃剣・射的・運動）の二科を設置していたが、互助会的性格も持ち、社員心得として次のことをあげている。

「第卅条 浮薄^{マブ}軽佻奢侈驕傲ナルハ皆志ヲ立テ本ヲ務ムル所以ニアラサルヲ以テ社員ハ敦厚ニシテ信ヲ貴ヒ勤勉ニシカヲ養ヒ以テ自治自立ノ道ヲ修ムルヲ要ス

第卅一条 社員ハ常ニ交通往来シテ親睦ヲ厚フシ善アレハ之ヲ共ニシ過アレハ互ニ誠メ以テ同志ノ好義ヲ固フスルヲ要ス

第卅二条 比周以テ私党ヲ樹テ偏僻以テ公正ヲ破ル是レ從來我地方（見消のうえ、方今と修正）ノ一大弊ナリ故ニ社員ハ中ヲ持シ正ニ立ツ兩ヲ之ヲ排斥シ以テ地方（見消）真ノ実利ヲ謀ルヲ要ス

第卅三条 邦国ハ元ト公党ニ成ニ私党ニ敗ル而シテ今ノ所謂政党ナル者ハ徒ニ私利ヲ貪リテ本務ヲ棄ツ末節ヲ争フテ大謀ヲ乱ル紛々擾々將サニ以テ同胞軋轢ヲ生シ国力衰微ヲ来サントス是レ実ニ天下ノ偽党社会ノ猖賊ト云フヘン故ニ社員ハ不偏不党以テ天下ニ立ツ自ラ任シ自ラ疆メ以テ主義ヲ拡充セン」ヲ要ス

末尾に「大日本紀元二千五百四十四年」と記されていることから、同社は明治一七年には存在していたわけである。民権運動末期における青

年壯士の政党観もろくがえて興味深い。

その他、実態不明の組織として公正会（二二年六月二五日、南郡尾上村にて西谷伊兵衛ら一八〇人で発会、幹事福士東八郎・外崎高勝・西谷長蔵）、郷党友愛社（南郡碓ヶ関友愛社と石川愛友社が合併、葛原耕一ら）、精英会（中郡富田村、会長村谷有秀、幹事長尾義連・増田友衛ら）、共心社（西郡、広田牧人ら）、協心会（三戸・五戸、二二年二月一日結成、会長岡崎敬太郎、副会長金子利七、幹事三浦道太郎・橋本格太郎）、公友会（三本木、雇地保三ら）、協心会（板屋野木、会長松山常次郎、副会長三上源吉、幹事坪田房五郎・高谷健次郎・対馬藤右衛門）などがある。⁽¹²⁾

大同派の組織人員は明らかではないが、二三年二月八日付『国民新聞』は公同会三、二〇〇名、義友会三、〇〇〇名、益友会三、六〇〇名、博愛社一、〇〇〇名、大同会二、〇〇〇名、土曜会三五〇名、および共進会二五〇名の計一〇、七〇〇名とし、改進黨派も六、五〇〇名を数えるとしている。また同記事は次の様に県内状況を述べている。

「同県を十分に於て其七部は大同派に傾き居れども改進黨には金力ある者多ければ能く他と拮抗するを得るなり、又両派の關係は私交上に及ぼすは勿論料理店旅人宿下宿屋理髮店より芸娼妓に至る迄両派に別れ居り、目下県會議員半数改選に際したるを以て珍談奇説頗る多し且つ懇談会の頻繁なるは他県の其比に見ざる処にして本年になりて大同派の開きたるものゝみにても各郡合せて四十二会に及びたるが集会者は多きは三百余名少きも百名に下らず、されど大抵は半纏を着たるチョン鬚連のみにて

理窟らしき事を言ふは全く弘前の人民のみなり」

二、懇親会・演説会

創刊一周年を迎えた『東奥日報』は「政治社会今日の急務は団体の組織を確立し以て在野の一大勢力を養成するに在り」と論じているが（二二年二月四日付社説「地方団体の組織に就て」、執筆者は南郡益友会常任書記の竹内清明）、各郡の組織が出揃ったところで政治運動の手段は懇親会・演説会の開催となる（二二年二月二四・二五日付社説「政治運動の両手段」）。青森県の場合、すでに二〇年暮に全県の懇親会がもたれているが、青森大同運動の起爆剤となった二一年八月の後藤来県から二年内に限って見てみると、表二のようになる。

また、明治一三―二七年にわたる県内政談演説会の開催状況は表三が示す通りだから、二二年に各項目とも民権期の数値を超えていることがわかる。更に、全国の数字と比較したのが表四である。青森県の数値の違いは典拠資料の相違から来るのであるが大差はない。この表から言えることは、演説度数・人員に関して全国傾向は二三、二五年に山が来る――ともに衆議院選挙のため――のに対し、青森県の場合、二六年の山に向って一路急増していることと、解散・演説禁止の両項目に関しては青森県も全国と同一傾向を示していることである。

さて、大同期の演説会・懇親会の中心となったのが青森県有志大懇親会である。第一回は後藤来県の直後に弘前で開かれ、その後西・東・南・北津軽郡の順で持ち回り開催し、二三年二月二三日の第九回開催（黒石

町)までが確認できる。南部地方で開かれていないことは、前述した大同会の組織体制からも、また地理的条件からも、八戸・上北・下北三郡が津軽五郡とは一定別行動をとっていたことと関係している。また、津軽地方も民権期とは様相を異にしつつあった。表五は明治一三―一七一年にかけての演説会状況を警察署所轄別に見たものである。これによると、民権期の弘前中心から国会開設以後青森・八戸・弘前の三極分化をとげていることがわかるが、二一年から二二年にかけて西・北両郡の伸びも著しい。

とくに西郡は県都青森に先んじ、弘前に次いで第二回有志大懇親会を開催しており、改進黨の第二回県同志懇親会も木造で開かれている。二二年七月七日の同志懇親会には大同派三〇名が出席しているが、会幹事には義友会幹部の寺山藤右衛門(善八郎、地主、郡議・県議)・山内佐五兵衛(地主、県議、県農業者諮問会員、西郡徴兵参事員、二二年八月一四日義友会除名)も名を列ねており大同・改進黨両派混在の観もあるが、会場で双方激論を闘かわせたという(二二年七月七、九日付)。

この後、改進黨が鯀ヶ沢において秘密会を開く一方、大同派の方は八月予定の第七回県有志大懇親会を繰り上げ、同月一四日に木造・西教寺で開いた。これは七日の同志懇親会が刺激になったのであり、弘前から参加した大同派は同夜木造の有志と会合を持ち、一週間後の開催を決めた(二二年七月一日付)。毎回、県有志懇の宣伝として『東奥日報』に発起人・賛成人の広告が掲載されているが、今回は懇親会前日の一三日になって賛成人一三二名を追加広告するという特別措置も初めてとられた。

こうした経緯より一四日の有志懇では改進黨批判が噴出することになるが、ここで大同派の改進黨観にふれておこう。『東奥日報』二二年六月九、一―一三、一六、一八日の六回連載の社説「陸奥改進黨」に依れば、近く結成される同党は県会議長寺井純司ら「県会議員中の重立たる人々」が中心であり、その主義綱領は中央の改進黨のそれとは相違するはずである。なぜなら、寺井は明治一六年当時、改進黨綱領とは雲泥の差の主義をかかげた陸奥帝政党を組織しているからであり、「今日も亦た同性のものと云ふべからざるものゝ如し」とのべ、主義的には「龍頭蛇尾の曖昧主義」であり、県庁の保護を受けていると批判した。

改進黨批判は九月二八日付「改進黨派の手段に就て」、一〇月二日付「改進黨果して如何なる運動を為さんとする乎」、一〇月一〇日付「改進黨の信用今何くに在るや」と続く。改進黨派結社としては東郡の和働会、南郡の経世会などがあつたが、陸奥改進黨の「少し毛色の替つたもの」(二二年六月三〇日付)として西津軽郡の中正社がある。同社は鯀ヶ沢町議の加藤一魯・大沢末吉や小田川喜平らの発起により、同町大字本町六四番戸に置かれ、趣旨は「一、至中正の真理を推究して公論を伸暢し吾人の福利を増進すべし 二、旧来の陋習を除き民心の改良を謀るべし 三、主意を拡張せんが為め学術衛生及農商工事の討論演説を為すべし」の三条であり、社長が小田桐勝英、副社長が戸沼源造、幹事は池田春太郎・宮下五郎右衛門。大沢は第三回県有志懇の発起人、戸沼も大同派の活動家であり、西郡における大同・改進黨両派の混在がこの点でも指摘できよう。戸沼はこの後自己批判し、中正社から離れたようである(二二年七月三日付)。

三、地方有志家

ここで言う地方有志家とは、政治結社の同人や懇親会・演説会の参加者を指す。現在筆者が氏名を確認しえたのは八一二名であり、その内訳は東郡二〇〇名、西郡二七〇名、南郡六七名、北郡四五名、中郡（弘前を含む）一七一名、南郡四六名、その他（住所不明・東京寄留の者）一三名である。青森県の民選議院建白・請願運動の参加者は三、三二四人を数え、前出『国民新聞』も大同派総勢一〇、七〇〇名としているから、当然この数字は運動参加者の一部にすぎないだろうが、現存の『東奥日報』その他の史料から抽出可能なのはこれらの人々である。

今、繁雑さを避けて、青森県有志大懇親会に発起人・賛成人・参加者のいずれかの形で三回以上関係した者を表六にまとめるにとどめた。但し、第一、二、九回は不明なので第三―八回を対象とし、三回未満でも職業・役職などが明らかかな者は極力文中で表記しておいた。表六の九八名は青森大同団結運動の中心的活動家と見て差し支えないだろう。彼等は旧民権派土族インテリ層であり、地主・豪農層であり、豪商・実業家層であった。また、彼らの中には第一期貴族院議員選挙人の大地主や徴兵参事員・所得税調査委員といった地方行政の参画者もおり、総じて、後藤象二郎が大同団結運動の核に期待した「少壮活潑ノ輩ヨリモ寧ロ県會議員財産家并ニ他ノ老成着実ノ士」⁽¹³⁾達であり、いわゆる「地方名望家」であった。

問題は残りの九割近い有志家の実態であり、地元開催の県有志懇への

参加者、結社の地域集会への出席者など頻出度の極めて少ない、いわば運動のすそ野を形成していた部分の解明が課題となる。たとえば、『東奥日報』は陸奥改進黨の条約改正断行建白書の署名者について「格別名望あり財産あり学識あり志想あるの人々に非ずして多くハ各郡村落農民等にして平生政治思想の何者たるを知らざるもの多きに在り」（二年九月二八日付「改進黨の手段に就て」）とのべ、末端の署名者における大同派とのレベルの違いを指摘しているが、大同派においても実際には「近來各地方の有志者と称する人々の中には名を懇親会に借りて其實を誤り、「醉舞放歌席を乱す」（二年一月二五日付「政治運動の両手段」）輩もいたのであり、集会のハ宴会化による運動の拡大も考慮にいれておかねばなるまい。

まとめにかえて

以上、青森大同団結運動の基礎的資料を整理してきたが、二一年夏以降の政治結社の族生、懇親会・演説会の盛行、「地方名望家」層を中核とする有志家などを背景に大同派は着実に県政界を支配し、第一回衆議院議員選挙の勝利を準備したのである。

その思想的背景には東北地方主義があり、それはおおよそ、観念的東北人士論↓組織的東北自立論↓戦術的東北団結論と展開するプロ地方・アンチ中央の意識であったことは拙稿⁽¹⁴⁾でのべた。これらの用語はいまだこなれていないので更に検討を要すると思うが、その際素材となるのが『東奥日報』の社説である。同紙については伊藤徳一『東奥日報と明治

時代』（東奥日報社、昭和三年）が最も詳細であり、同社刊の『新聞記事に見る青森県日記百年史』（昭和五年）によって創刊期の記事がうかがえるが、同紙の編集方針・主義主張を知るには不十分であることは否めない。地方新聞の本格的研究はほとんどなされていないが、社説の分析・検討は当面可能なテーマである。

本稿も今後の課題との関係上、実質的創刊の年であり、大同団結運動が全面展開した明治三年の同紙社説を整理しておこう。同年社説は合計二九〇件のほり、うち一〇回以上の長期連載は、二月一七日―三月八日の二四回「自治制の実施將に迫る」、一月一三―二九日の一二回「二三年度地方税支出予算議案を読む」、七月三十一―八月一日の一回「条約改正の中止を望む」であり、五回以上は四月一四―二三日の八回「内国税徴収費節約の策」、八月一八―二八日の八回「国家問題と党派問題」、六月九―一八日の六回「陸奥改進黨」、三月二四―二九日の五回「青森県立尋常中学校の移転」、八月一三―一七日の五回「独立の生活及独立の政治家」、二月六―一二日の五回「法律第三〇号」である。これらで二年全体の四分の一を占め、地方自治制、条約改正問題、政治運動などが主であることがわかる。

とくに市町村制度は最重要テーマであって、次の様に位置づけられていた。「国会の開設ハ明年ニ在リ……其事は重大なるも順序を以て言へは第二の問題に属せり、而るに其準備用意のみに汲々として却て今眼前に横へる所の第一重要の問題を遺棄して顧みざるか如きは決して地方人民の幸福を全ふすべき得策に非ざるを知るなり、然らば則ち今眼前に横へる所の第一重要問題とは何ぞや他なし市制町村制の実行是れなり」

（一月一日付「敢て民間政事に一言す」）。

また、条約改正問題も重要な焦点であり、「二十三年度に於ては内政改良の順序も稍整頓するの場合に至るべきを以て兎に角にも政治家たるものは国権を拡張し国本を培養するの道を講じて外交上に意を注かざるへからざるなり」（四月一日付「二三年度の政治家」）と論じている。

条約改正反対運動において青森県出身の書生・壮士が盛んに活動して（¹⁵）たことや、そうした中から日清戦争前後の朝鮮半島で活動する者が出たことなどから、たんに民権から国権への転換と概念的にとらえるだけでなく、国権傾斜の具体的足跡を説明することが求められよう。

いずれにしても、『東奥日報』の社説の視点は立憲制の樹立それ自体はもはや主要闘争課題たりえないという立場であり、内に地方問題への関心、外に国権拡張への志向を生んでゆくのである。

注

- (1) 本県民権運動の研究状況については、自由民権百年全国集会実行委員会編『自由民権運動研究文献目録』（三省堂、昭和五九年）一六一―一八ページ参照。

- (2) 江村栄一『自由民権革命の研究』（法政大学出版局、昭和五九年）第二章第二節「建白書・請願書の考察」。

- (3) 『青森県総覧』（東奥日報社、昭和三年）によれば、「夫れ君民共治の政体は、君主上にありて万民を統轄し、公明正大の憲法を確定し、国民をして国事に参与せしむるの制にして、蓋し諸政中之に優るの治法なかるべし」（四八ページ）というものであった。

(4) 渡辺隆喜「自由民権運動と政党構造―政党運動と地域との関連をめぐって―」(『駿台史学』四二号、昭和五二年)二七ページ。

(5) 大同団結運動の展開過程については、藤井松一『近代天皇制の成立と展開』(弘生書林、昭和五七年)第一章「大同団結運動の展開―近代天皇制成立史論序説―」参照。最近の論稿として、M・W・スティール(広瀬順皓訳)「議会政治の誕生―大同団結と参加危機―」(坂野潤治・宮地正人編『日本近代史における転換期の研究』山川出版、昭和六〇年、所収)がある。

(6) 拙稿「明治期地方論の一考察―地方民権における地方主義―」(藤井松一・岩井忠熊・後藤靖編『日本近代国家と民衆運動』有斐閣、昭和五五年、所収)。

(7) 『自由党史』の記述に限っても、川口栄之進・足立真雄・成田三郎・長尾孫吉・村谷有秀・七戸仲行・斎藤新一郎らの名前が確認できる。

(8) 大槻弘『越前自由民権運動の研究』(法律文化社、昭和五五年)一八二―一八四ページ参照。

(9) 拙稿「初期議會下の一東北代議士の歩み―『榊喜洋芽日記』を中心に―」(本誌七一号、昭和五五年)二一ページ。

(10) 稲葉克夫『青森県近代史の群像』(北の街社、昭和六〇年)二五ページ。

(11) 明治二二年八月三日付『日本』九号「後藤伯の巡遊と青森県」。

(12) 従来の研究論文で大同会とともにあがっている「良民会」については確認できなかった。

(13) 明治二二年九月六日付『政論』七号「東北諸州ノ大勢」。

(14) 注(6)論文。

(15) たとえば、尾崎行雄に強烈な印象を与えた斎藤新一郎や桜庭経緯であり、のちに朝鮮に渡る海浦篤弥である。これら青年壮士の歴史的
存在については、今後論じてゆきたいと思う。

(上越教育大学助手)

表 1 大同会の財政

| 明治22年7月～23年6月の経費予算（明治22年6月10日 大同派委員会） | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|-----------------|
| 収入 | 950.00（円） | |
| | 600.00 各郡 | } 10ヵ月割賦にて徴収 |
| | 300.00 弘前市内 | |
| | 50.00 中津軽郡村落 | |
| 支出 | 950.00 | |
| | 300.00 出京常議員費（1ヵ月25円，12ヵ月分） | 24.00 小使給料 |
| | 30.00 出京常議員往復旅費（片道15円） | 5.50 茶及紙炭油筆墨 |
| | 142.50 会員並寄附金募集費 | 20.50 予備費 |
| | { 30.00 弘前分（1人1日10銭，10名30日分） | 31.00 新聞紙東京三四日報 |
| | { 112.00 各部分（1人1日25銭，15名30日分） | 3.00 郵便電信代 |
| | 80.00 大同倶楽部費 | 36.00 事務員報酬 |
| | 20.00 "（八戸より出金） | 100.00 大同倶楽部臨時費 |
| | 120.00 事務所経費 | 177.50 予備費 |
| 収支差引 | 0.00 | |

典拠；明治22年6月14日付『東奥日報』「大同派委員会」

表 3 県内政談演説会の状況

| 年次 | 演 説 会 | | 演 題 | | 解 散 | |
|----|-------|-----|-------------|-------|-----|------|
| | 度 数 | 人 員 | 認 可 | 不 認 可 | 全 会 | 結 社 |
| 13 | 17 | 39 | 43 | — | — | — |
| 14 | 28 | 68 | 72 | — | — | — |
| 15 | 30 | 76 | 11 | 5 | — | — |
| 16 | — | — | — | — | — | — |
| 17 | 9 | 13 | 42 | 1 | — | — |
| 18 | 4 | 9 | 12 | 2 | 1 | — |
| 19 | — | — | — | — | — | — |
| 20 | 21 | 34 | 97 | 13 | 3 | — |
| 21 | 17 | 34 | 47 | 11 | 3 | — |
| 22 | 38 | 81 | 225 | 26 | 6 | — |
| 23 | 36 | 50 | 149 | 20 | 5 | — |
| 24 | 66 | 81 | | 66 | 5 | — |
| 25 | 71 | 136 | | 71 | 7 | 1 |
| | | | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解 散 | 演説停止 |
| 26 | 156 | 285 | | 71 | 3 | 43 |
| 27 | 87 | 234 | | 49 | 4 | 65 |

典拠；『青森県統計書』

註：①16年は不明 ②24-25年の演題は届出数

表 2 県内の懇親会・演説会

| 年 月 日 | 名 称 | 場 所 | 人 員 | 備 考 |
|-----------|---------------|----------|-----------|--------------------------|
| 20. 12. 3 | 青森県八郡懇親会 | 青森・丸吉楼 | 104 | 『榊喜洋芽日記』に記載あり |
| 21. 8. 3 | 後藤象二郎歓迎有志懇親会 | 弘前・長勝寺 | 600 | 会主村谷有秀 |
| 4 | “ “ | 弘前・延年楼 | 40～50 | |
| | “ 政談演説会 | 弘前・榎木座 | 2500～2600 | 弁土斎藤新一郎、本多庸一、坂崎斌、八木原繁社ほか |
| 5 | “ 博愛社有志懇親会 | 浪岡町 | 100 | |
| | “ 有志懇親会 | 青森町 | | |
| 8 | “ “ | 八戸町 | 150 | |
| 9. 1 | 第1回青森県有志大懇親会 | 弘前・酔月楼 | | |
| 10. 25 | 第2回 “ | 鯉ヶ沢・高沢寺 | 150 | |
| 11. - | 中津軽郡有志懇親会 | 藤代・革秀寺 | 150 | 盈進社発起 |
| 12. 15 | 第3回青森県有志大懇親会 | 青森・丸吉楼 | 100 | 会主総代今泉清、会費45銭 |
| 22. 1. 3 | 益友会委員会 | | | |
| | 婦人演説会 | 青森・亀谷座 | 200 | 三橋しげ「女権拡張説」 |
| | 小湊村有志懇親会 | 小湊・浄林寺 | 20 | |
| 5 | 協心会衛生教育会合同親睦会 | 板屋野木村 | | 協心会会長松山常次郎 |
| 13 | 第2回三戸郡有志懇親会 | 三戸村 | | 発起人北村志恵司ら5人 |
| 27 | 市町村制実施研究会 | 弘前市 | | 弘前大同会発起 |
| 2. 2-3 | 政談演説会 | 青森・亀谷座 | | 塩野良清（山形）「協和の勢力」「強兵論」ほか |
| - | 博愛社常規集會 | 浪岡村 | 80 | 役員選出 |
| 7 | 平民会懇親会 | 板屋野木村 | | 発起人寺山藤右衛門 |
| 10 | 第1回青森県同志懇親会 | 五所川原・毛内楼 | 70 | 改進黨系 |
| 24 | 第4回青森県有志大懇親会 | 黒石・向陽軒 | 150 | 会費30銭 |
| 25 | 各郡委員会 | 黒石町 | | 第5回県懇を4月北郡で予定、大同会員募集 |
| 3. 10 | 南部三郡有志懇親会 | 三本木小学校 | 80 | |
| 4. 3 | 横内村懇親会 | 横内村 | | 村長候補私選 |
| 6 | 南郡益友会懇親会 | 上十三村 | 86 | |
| | 経世会支部会 | 浪岡村 | 25 | 改進黨系 |

| 年 月 日 | 名 称 | 場 所 | 人 員 | 備 考 |
|-------|-----------------|------------|-------|---------------------------|
| 4. 14 | 尾崎村有志懇親会 | 尾崎村葛西史楼宅 | 143 | 発起人葛西史楼 |
| | 益友会博愛社連合親睦会 | 水木村仁川原某宅 | 50 | 富喜館村村長候補私選 |
| 16 | 北津軽郡大同会発会式 | 五所川原村議事堂 | 200 | |
| 17 | 弘前本町ほか16か町有志懇親会 | 弘前・大行院 | 70 | 発起人成田果 |
| 20 | 益友会総会 | 黒石・法眼寺 | 850 | |
| 21 | 盈進社総会 | 弘前倶楽部 | 70 | |
| | 公民懇親会 | 荒川村 | | 自治制について |
| 25 | 和働会懇親会 | 青森・臥竜楼 | 30~40 | 改進黨系 |
| 27 | 経世会懇親会 | 山形村 | 33 | |
| 5. - | 中平内村民懇親会 | 中平内村 | 50 | 発起人竹内恒三 |
| 6 | 野沢村懇親会 | 野沢村 | 150 | |
| 12 | 彰義青年協会創立協議会 | 木造・向陽高等小学校 | 数十名 | 会長葛西末吉 |
| 19 | ” 拡張方法会議 | | | |
| 22 | 弘前大同委員会 | 弘前市 | | 奈良誠之助の東北会報告 |
| | 第2回城西懇親会 | 弘前・大行院 | 90 | |
| 26 | 第5回青森県有志大懇親会 | 五所川原村議事堂 | 200 | 会費30銭 |
| | 盈進社臨時集會 | 藤代・革秀寺 | 60 | 組織拡張について |
| 6. 9 | 第6回青森県有志大懇親会 | 弘前・貞昌寺 | 360 | 発起人総代本多庸一、会費20銭、秋田県有志5名参加 |
| 10 | 弘前大同派委員会 | 弘前市 | | 東京大同倶楽部費議決 |
| 11 | 豊田村有志懇親会 | 豊田村 | 90 | 発起人柳田治三郎 |
| 13 | 政談演説会 | 弘前市 | | |
| 25 | 公正会発会式 | 尾上村西谷伊兵衛宅 | 180 | |
| 7. 7 | 政談演説会 | 木造・西教寺 | 200 | 改進黨系 |
| | 第2回青森県同志懇親会 | ” | 120 | 発起人寺山藤右衛門ら4人、改進黨系中心 |
| | 盈進社臨時総会 | 藤代・革秀寺 | | 組織拡張委員選出 |
| 14 | 第7回青森県有志大懇親会 | 木造・西教寺 | 400 | 会費30銭、来会者1,000人 |
| 16 | 協同会会合 | 木造・正法寺 | | 起草委員葛西恭太郎ら |
| 20 | 公同会懇親会 | 荒川村小学校 | 40 | 発起人白鳥鴻幹、煤田至誠 |
| | 碓ヶ関有志懇親会 | 碓ヶ関村桜庭某宅 | 60 | 発起人葛原耕一ら5人 |

| 年 月 日 | 名 称 | 場 所 | 人 員 | 備 考 |
|-------|------------------|------------|---------|------------------------------|
| 7. 25 | 第2回西海岸有志大懇親会 | 岩崎村大屋貴忠宅 | 60 | |
| 28 | 和働会懇親会 | 小湊・浄林寺 | | |
| 8. 4 | 公同会役員選挙会並大懇親会 | 青森・丸吉楼 | 101 | 会長小笠原宇八 |
| 5 | 青森県壮年会学術演説会 | 弘前市 | 1,000 | |
| 14 | 義友会臨時総会 | 木造村 | 70 | 幹事山内佐五兵衛除名 |
| 18 | 第2回有志懇親会兼盈進社臨時総会 | 藤代・革秀寺 | 110 | 地租軽減、条約改正中止の建白など |
| 22 | 和働会懇親会 | 油川・浄満寺 | | |
| | 政談演説会 | 八戸・野田撃劔場 | 100 | 富樫兵作(山形)「青年諸士の団結を望む」ほか |
| 9. 15 | 土曜会会合 | 八戸町 | | 役員選出 |
| 16 | 陸奥改進黨演説会 | 青森・安田座 | | |
| 26 | 経世会演説会 | 大鰐村 | | |
| 28-29 | 自由政談演説会 | 青森・安田座 | 500 | 岩谷定蔵(北海道)「条約改正の始末」「元氣論」ほか |
| 10. 5 | 協心社演説会 | 三戸町 | | |
| 5-6 | 政談演説会 | 青森・安田座 | 400~500 | 菅原笑治(山形)「陸奥日報社員に望む」ほか |
| 8-9 | “ | 黒石町 | 400 | 中村馨(石川)「将来の政治運動」「東北人の勢力」ほか |
| 12 | “ | 黒石・法永寺 | 300 | “ 「青森県人に望む」「名利家の術中に陥る勿れ」ほか |
| 12-13 | 独立自由政談演説会 | 弘前・征木座 | | 岩谷定蔵 |
| 14 | 大演説会 | 黒石町 | | |
| 15 | 政談演説会 | 五所川原村 | 百数十人 | 菅原笑治 |
| 17 | “ | 青森・安田座 | | 滝沢助三郎(長野) |
| | 碓ヶ関村学術演説会 | 碓ヶ関村友愛会事務所 | 70~80 | 秋田県有志参加 |
| | 義友会会合 | 木造村 | | 役員改選 |
| 19 | 土曜会発会式 | 八戸・北越亭 | 百数十人 | |
| | 政談演説会 | 青森・安田座 | | 中村馨「奮起せよ東北の人士」「政党内閣論」ほか |
| 24-25 | 演説会 | 黒石町 | | 菅原笑治「吾党ヲ害スル者ハ誰ソ」「粉黛ハ醜婦ノ看板」ほか |
| 26 | 協心会例会 | 木造村小学校 | 30 | |
| 26 | 学術演説会 | 黒石町 | | 菅原笑治、岡田玄寿「学理上ヨリ国家ノ景況ヲ望ム」ほか |
| 27-28 | 政談演説会 | 木造村太田善之助宅 | 400 | 岩谷定蔵 |
| 28 | 改進黨演説会 | 青森・丸吉楼 | | 肥塚竜(東京)「改進黨は何ぞ」ほか |

| 年月日 | 名 称 | 場 所 | 人 員 | 備 考 |
|--------|------------------|-----------|---------|----------------------------|
| 10. 29 | 政談演説会 | 沿川・薬王寺 | 70 | 岩谷定蔵・斎藤武美 |
| 30 | " | 板屋野木・龍淵寺 | 200 | " |
| 11. 2 | 益友会集会 | | 40 | |
| 3 | 公同小湊支部懇親会 | 小湊・浄林寺 | 300 | 八戸土曜会、東奥日報社より祝詞 |
| | 秋季有志大懇親会 | 弘前市本町倶楽部 | | 弘前大同会発起 |
| | 博愛社惣会議 | | 50 | |
| 6 | 政談演説会 | 青森・安田座 | | 武藤金吉(東奥日報社)「青年将来の大望」ほか |
| 6-7 | " | "・" | | 岩谷定蔵「改進黨の演説は百把一文の価値なし」ほか |
| 13 | 第8回青森県有志大懇親会 | "・丸吉楼 | 250 | 会費45銭、発起人総代小笠原宇八 |
| 14 | 大同派委員会 | "・" | | 大同倶楽部常議員改選、通信員設置など |
| 18 | 大同派政談演説会 | "・安田座 | | |
| 12. 1 | 公同会油川支部懇親会 | 油川・明誓寺 | 750 | |
| | 和働会懇親会 | "・浄満寺 | 70 | 来会人数について和働会より879名との訂正あり |
| 4 | 大同政談演説会 | 木造村太田善之助宅 | 600 | 武藤金吉の演題不認可 |
| | 学術演説会 | " | | 武藤金吉「国の花」 |
| 6 | 鱒ヶ沢学術演説会 | 鱒ヶ沢・米生寺 | 400 | " 「煤払ひの説」 |
| 8 | 深浦村大同政談演説会 | 深浦村岸本庄平宅 | 300 | " 「共有物を論ず」、M14以来8年振りの政談演説会 |
| | " 有志懇親会 | "・金一樓 | 40 | |
| 10 | 鱒ヶ沢村大同政談演説会 | 鱒ヶ沢村原庄太郎宅 | | 武藤金吉「共有物を論ず」 |
| | " 有志懇親会 | " 竹谷某宅 | | 義友会支部設置を協議 |
| 11 | 出精村大同政談演説会・有志懇親会 | 出精・無量寺 | 150~300 | 武藤金吉「専制政府と立憲政府」「煤払ひの説」ほか |
| 12 | 五所川原村大同政談演説会 | 五所川原村寄席 | 200 | " 「偽党撲滅すべし」「借金返さざる可からず」 |
| | " 有志懇親会 | 五所川原・三浦亭 | | |
| 14 | 協同会例会 | 木造村 | | 討論題「慈善家は懶惰も養成するの憂あり」 |
| 15 | 大鱒村大同派懇親会 | 大鱒村工藤加賀助宅 | 200 | |
| 17 | 大同派懇親会 | 長橋村石岡七郎宅 | 50 | |
| 23 | 北郡大同委員会 | 五所川原村議事堂 | | |
| 28 | 土曜会学術演説会 | 八戸町土曜会事務所 | 500 | |

『東奥日報』、『青森県総覧』などから作成

表 4 政談演説会の状況

| 年次 | | 演 説 会 | | 演 題 | | 犯 則 者 処 分 | |
|----|-----|-------|--------|---------|-------|-----------|-----------|
| | | 度 数 | 人 員 | 認 可 | 不 認 可 | 解 散 | 演説禁止 |
| M | 青 森 | 7 | 10 | 12 | 2 | 1 | - |
| 18 | 全 国 | 444 | 1,263 | 2,845 | 270 | 66 | 8 |
| M | 青 森 | (1) - | (1) - | (2) - | - | (1) - | - |
| 19 | 全 国 | 444 | 1,538 | 3,000 | 184 | 57 | 25 |
| M | 青 森 | 20 | 24 | 81 | 12 | 3 | - |
| 20 | 全 国 | 1,117 | 3,329 | 6,378 | 771 | 127 | 17 |
| M | 青 森 | 14 | 33 | 46 | 11 | 2 | 1 |
| 21 | 全 国 | 1,601 | 5,434 | 8,481 | 1,047 | 130 | 24 |
| M | 青 森 | 35 | 75 | 227 | 27 | 5 | 2 |
| 22 | 全 国 | 5,450 | 22,407 | 35,255 | 1,944 | 242 | 40 |
| M | 青 森 | 40 | 41 | 96 | 11 | 3 | 3 |
| 23 | 全 国 | 7,621 | 28,067 | 37,669 | 716 | 123 | 99 ×10 |
| | | | | 屋 外 集 会 | | | 演説停止 |
| | | | | 認 可 | 不 認 可 | | |
| M | 青 森 | 67 | 75 | - | - | 5 | 8 |
| 24 | 全 国 | 6,482 | 15,526 | 48 | 7 | 241 | 570 |
| M | 青 森 | 79 | 104 | - | - | 7 | 22 |
| 25 | 全 国 | 8,076 | 21,796 | 158 | 6 | 474 | 1,881 |
| M | 青 森 | 157 | 293 | - | - | 3 | 43 |
| 26 | 全 国 | 7,076 | 18,021 | 88 | 21 | 157 | 2,030 |
| M | 青 森 | 87 | 234 | - | - | 4 | 64 |
| 27 | 全 国 | 5,750 | 15,223 | 77 | 2 | 104 | 1,069 |

典拠；統計局編纂『日本帝国統計年鑑』第6-15回（明治20-29年刊行分）

註：①第6回以前には「政談演説」の項目はない。

②19年は「長崎、栃木、青森、島根、愛媛、大分、宮崎、沖縄ノ八県ハ
事実ナン」となっているが、（ ）内の数字は、青森県知事鍋島幹が
警視総監三島通庸に宛てた「演説会処分統計（19年12月分）」に依る
（国立国会図書館憲政資料室蔵三島通庸文書532-16）。

③23年の演説禁止欄は「演説停止及禁止」となっており、×印が演説禁止。

④23年の演説禁止欄は「演説停止及禁止」となっており、×印が演説禁止。

表 5 警察署所轄別の政談演説会の状況

| 青 次 | 演 説 会 | | 演 題 | | 解 散 | |
|--------|-------|-----|-------------|-------|-----|------|
| | 度 数 | 人 員 | 認 可 | 不 認 可 | 全 会 | 結 社 |
| 13 | — | — | — | — | — | — |
| 14 | — | — | — | — | — | — |
| 15 | — | — | — | — | — | — |
| 19 | — | — | — | — | — | — |
| 20 | 9 | 21 | 43 | 12 | — | — |
| 21 | 5 | 12 | 20 | 3 | — | 1 |
| 22 | 11 | 27 | 66 | 16 | — | — |
| 23 | 12 | 15 | 54 | 6 | — | — |
| 24 | 4 | 37 | | 41 | 4 | — |
| 25 | 2 | 41 | | 23 | 2 | — |
| 26 | 5 | 94 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解 散 | 演説停止 |
| 27 | 16 | 68 | | 27 | 2 | 23 |
| | | | | 9 | — | 34 |

| 鯨 沢 | 演 説 会 | | 演 題 | | 解 散 | |
|--------|-------|-----|-------------|-------|-----|------|
| | 度 数 | 人 員 | 認 可 | 不 認 可 | 全 会 | 結 社 |
| 13 | — | — | — | — | — | — |
| 14 | — | — | — | — | — | — |
| 15 | — | — | — | — | — | — |
| 19 | — | — | — | — | — | — |
| 20 | 2 | 2 | 6 | — | — | — |
| 21 | 3 | 3 | 5 | 3 | — | — |
| 22 | 10 | 28 | 51 | 2 | 1 | — |
| 23 | 12 | 4 | 5 | — | — | — |
| 24 | 4 | 5 | | 4 | — | — |
| 25 | 1 | 4 | | 1 | — | — |
| 26 | 3 | 4 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解 散 | 演説停止 |
| 27 | 8 | 18 | | — | — | — |
| | | | | 1 | 1 | 1 |

(注：13～15年は木造警察署所轄)

| 中 津 | 演 説 会 | | 演 題 | | 解 散 | |
|--------|-------|-----|-----|-------|-----|------|
| | 度 数 | 人 員 | 認 可 | 不 認 可 | 全 会 | 結 社 |
| 13 | | | | | | |
| 14 | | | | | | |
| 15 | | | | | | |
| 19 | | | | | | |
| 20 | | | | | | |
| 21 | | | | | | |
| 22 | | | | | | |
| 23 | | | | | | |
| 24 | — | — | | — | — | — |
| 25 | 2 | 4 | | 2 | 1 | — |
| 26 | | | | | | 演説停止 |
| 27 | | | | | | |

(注：24、25年のみ設置)

| 黒石警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|---------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | | | | | | |
| | 14 | | | | | | |
| | 15 | | | | | | |
| | 19 | | | | | | |
| | 20 | | | | | | |
| | 21 | 2 | 5 | 7 | — | — | — |
| | 22 | 4 | 7 | 28 | 6 | 2 | — |
| | 23 | 4 | 4 | 14 | — | — | — |
| | 24 | 6 | 3 | | 6 | — | — |
| | 25 | 4 | 14 | | 4 | — | — |
| | 26 | 13 | 18 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 1 | 4 | | 3 | — | — |

(注：21年より弘前警察署から独立)

| 五所川原警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|-----------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | — | — | — | — | — | — |
| | 14 | — | — | — | — | — | — |
| | 15 | — | — | — | — | — | — |
| | 19 | — | — | — | — | — | — |
| | 20 | 1 | 1 | 8 | 1 | 1 | — |
| | 21 | 1 | 1 | 2 | — | 1 | — |
| | 22 | 6 | 10 | 41 | — | — | — |
| | 23 | 2 | 6 | 12 | — | — | — |
| | 24 | 1 | 1 | | 1 | 1 | — |
| | 25 | 9 | 15 | | 9 | — | — |
| | 26 | 7 | 15 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 10 | 23 | | 2 | — | 3 |

| 七戸警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|---------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | — | — | — | — | — | — |
| | 14 | — | — | — | — | — | — |
| | 15 | — | — | — | — | — | — |
| | 19 | — | — | — | — | — | — |
| | 20 | — | — | — | — | — | — |
| | 21 | 1 | 2 | 2 | — | — | — |
| | 22 | — | — | — | — | — | — |
| | 23 | 3 | 3 | 7 | 2 | — | — |
| | 24 | — | — | | — | — | — |
| | 25 | 2 | 6 | | 2 | — | — |
| | 26 | 21 | 41 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 21 | 45 | | 9 | 3 | 16 |

| 田名部警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|----------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | — | — | — | — | — | — |
| | 14 | — | — | — | — | — | — |
| | 15 | — | — | — | — | — | — |
| | 19 | — | — | — | — | — | — |
| | 20 | — | — | — | — | — | — |
| | 21 | — | — | — | — | — | — |
| | 22 | — | — | — | — | — | — |
| | 23 | — | — | — | — | — | — |
| | 24 | — | — | — | — | — | — |
| | 25 | — | — | — | — | — | — |
| | 26 | 4 | 8 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 5 | 16 | — | 1 | — | 2 |

| 八戸警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|---------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | 2 | 2 | 6 | — | — | — |
| | 14 | 2 | 4 | 8 | — | — | — |
| | 15 | — | — | — | — | — | — |
| | 19 | — | — | — | — | — | — |
| | 20 | 3 | 3 | 11 | — | — | — |
| | 21 | 2 | 2 | 2 | — | — | — |
| | 22 | 2 | 2 | 3 | — | — | — |
| | 23 | 6 | 6 | 15 | 4 | 2 | — |
| | 24 | 4 | 10 | — | 4 | — | — |
| | 25 | 20 | 27 | — | 20 | 3 | — |
| | 26 | 38 | 70 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 22 | 47 | — | 16 | — | 7 |

| 弘前警察署所轄 | 年次 | 演説会 | | 演題 | | 解散 | |
|---------|----|-----|----|-------------|-----|----|------|
| | | 度数 | 人員 | 認可 | 不認可 | 全会 | 結社 |
| | 13 | 15 | 37 | 37 | — | — | — |
| | 14 | 26 | 64 | 64 | — | — | — |
| | 15 | 30 | 76 | 11 | 5 | — | — |
| | 19 | — | — | — | — | — | — |
| | 20 | 6 | 7 | 29 | — | — | — |
| | 21 | 3 | 9 | 9 | 5 | — | — |
| | 22 | 5 | 7 | 36 | 2 | 2 | — |
| | 23 | 7 | 12 | 42 | 8 | 2 | — |
| | 24 | 10 | 25 | — | 10 | — | — |
| | 25 | 10 | 25 | — | 10 | 1 | 1 |
| | 26 | 17 | 35 | 届出ノ効ヲ失ヒタルモノ | | 解散 | 演説停止 |
| | 27 | 4 | 13 | — | 8 | — | 2 |

典拠：『青森県統計書』

註：①16-18年の所轄別、数は不明 ②24-25年の演題は届出数

表 6 地方有志家

| | 氏名 | 職業 | 役職 | 県有志懇親会参加度 | | | | | | 備考 |
|------------------|---------|-----------|--------------------------------|-----------|---|---|---|---|-------------------|------------------|
| | | | | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| 東 津 軽 郡 | 小笠原 宇八 | 旅館経営 | 公同会長・東日副社長・同株主・青森町議・大同倶楽部幹事 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 青森共益会役員 |
| | 村井 新助 | 旅館経営 | 公同会員・青森町議・同消防組世話掛 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 郷友会副会長 |
| | 今泉 清 | | 公同会議員 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 白鳥 慶一 | 地主 | 公同会幹事・東日株主・赤十字社員 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | M23. 7. 16公同会除名 |
| | 徳差 藤兵衛 | 農・馬産業 | 公同会員・東日株主・大同倶楽部幹事・筒井村議・県議(M23) | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | 第9・11代筒井村長 |
| | 津幡 宗三郎 | 代言人 | 公同会議員・東日株主・青森町常設委員 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | 属養会員 |
| | 蒲田 広 | 東奥義塾勤務 | 東日結社人兼社長・同株主・弘前市議・県議 | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 東奥義塾学友会常議員 |
| | 岩川 常之進 | 東日会計主任 | 公同会議員 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 工藤 則定 | | 公同会員 | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | 第3代十三村長 |
| | 須藤 寛 | | 公同会員 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 壮士 |
| | 山田 公正 | 米穀輸出商 | 公同会議員・青森輸出米穀組合役員 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 斎藤 武男 | 東日編集人 | 公同会員 | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | | |
| | 工藤 岩根 | 東日記者 | 公同会員 | ○ | | ◎ | | ◎ | | |
| | 白鳥鴻幹〔彰〕 | | 公同会議員・荒川村議 | ○ | | | ◎ | ◎ | | 慶一子息、第3・5・7代荒川村長 |
| 竹内 恒三 | 小浜役場勤務 | 公同会員 | ○ | | ◎ | | ◎ | | 第2代西平内村長、第6代中平村村長 | |
| 斎藤 盛 | 東日社員 | 公同会員 | ○ | | ◎ | | ◎ | | 武男弟 | |
| 武藤 金吉 | 東日編集人 | | ○ | ◎ | ◎ | | | | | |
| 桂 平策 | 豪商・東日社員 | | ○ | ◎ | ◎ | | | | 後藤象二郎歓迎青森惣代 | |
| 小林 金作 | | 公同会員 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 鎌田 文助 | | 公同会員・東日株主 | | | ○ | ◎ | ◎ | | | |
| 西 | 斎藤 常太郎 | | 義友会長・柴田村議・同助役・西郡徴兵参事員・県議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 出町 源蔵 | | 義友会幹事・同常議員・県議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 藤本 輔五郎 | | 義友会幹事・同常議員・県議・兼館村議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 初代出精村長 |
| | 戸沼 源蔵 | 豪商 | 中正社副会長・鯉ヶ沢町議 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 西郡商談会員 |

| | 氏名 | 職業 | 役職 | 県有志懇親会参加度 | | | | | | 備考 | | |
|------------------|--------|---------------------|---------------------|-------------|--------|---|---|---|------------------|--|---|--|
| | | | | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | | |
| 津 軽 郡 | 岸 太 | 木造両盛銀行 酒造業 豪農 | 鯉ヶ沢町議・県議 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ● | のち改進黨、第6・9代鯉ヶ沢町長 | | | |
| | 三上 不可止 | | 義友会幹事・同常議員・木造村議・県議 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| | 市田 兵七 | | 東北15州委員会委員・車力村議 | | ○ | ◎ | ◎ | ● | | 学友会員 | | |
| | 藤田 千吾 | | 深浦町議・県農業部諮問会員 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ● | | 初代深浦町長、学友会員 | | |
| | 広田 牧人 | | 義友会常議員・協同会常議員 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ● | | 学友会員、第2・5代出精村長 | | |
| | 松木 幹三郎 | | 義友会常議員・兼館村議 | | | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| | 渋谷 従吾 | | 県農事諮問会員 | | | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| | 北沢 吉兵衛 | | 兼館村議 | | | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| | 郡 | | 宮崎 永太郎 | | 義友会常議員 | | | ◎ | | ◎ | ● | |
| | | | 原田 豊太郎 | | | | | ◎ | | ◎ | ● | |
| | 成田 章 | | | | | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| | 原田 佐次郎 | | | | | ◎ | ◎ | ● | | | | |
| 南 津 軽 郡 | 加藤 宇兵衛 | 地主・醸造業 | 益友会副会長・東日株主・黒石町議・県議 | ● | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 第4代大杉村長 初代碓ヶ関村長 第5代山形村長 第2代石川町長 | | |
| | 上藤 善太郎 | 豪農・酒造業 | 博愛社副社長・東日株主・県議 | ● | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | 松井 清三郎 | | 益友会員・東日株主 | | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | 蝦名 文八郎 | 豪商・リンゴ園経営 | 東日株主・女鹿沢村長 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| | 葛原 耕一 | 豪農 | 友愛社幹事 | ● | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| | 津 | 竹内 清明 | リンゴ園経営 | | ● | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| | | 鳴海 久兵衛 | 地主・リンゴ園経営 | 益友会副会長・東日株主 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| | | 西村 勘十郎 | | 博愛社書記 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 軽 | 熊沢 慶次郎 | 富農 | 東日株主 | | ● | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | 前田 喜一郎 | 豪農・リンゴ園経営 | 博愛社幹事 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | 葛西 妥 | | 大同会員 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 郡 | 対馬 堅司 | | 博愛社幹事 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | | 葛西 史楼 | | 尾崎村有志総代 | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| | 齋藤 七内 | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |

| | 氏名 | 職業 | 役職 | 県有志懇親会参加度 | | | | | | 備考 | |
|--------|--------|--------------|-------------------------|--------------------------|---|---|---|---|---|---------------------|--------------|
| | | | | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | |
| 北 | 櫛引英八 | 牧場経営 | 大同会幹事・県会副議長・衛生教育会長 | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | ○ | 第6代弘前市長 初代五所川原町長 | |
| | 小山内鉄弥 | | 大同会員・県議・脇元村長・県勸業水産部諮問会員 | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 花田一色 | | 衛生教育会副会長 | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 石郷岡左司馬 | | | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 佐々木弘造 | 地主・酒造業 | 原子村議・県農業部諮問会員・県議 | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | | 第2代七和村長 | |
| | 佐々木喜太郎 | | | | | ● | ◎ | ◎ | | 貴族院議員第1期選挙人 | |
| | 佐々木嘉太郎 | | 地主 | 北郡所得税調査委員 | | | ● | ◎ | ◎ | | 貴族院議員第1期選挙人 |
| | 竹浪良太郎 | | 地主 | 板屋野木村議・所得税調査委員 | | | ● | ◎ | ◎ | | 貴族院議員第1期選挙人 |
| | 阿部賢吉 | | 地主・リンゴ園経営 | 七和村長・原子村議・県議 | | | ● | ◎ | ◎ | | 貴族院議員第1期選挙人 |
| | 福士門三郎 | | | 原子村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | 学友会員、第3代板柳町長 |
| 三上源吉 | | 協心会副会長 | | | ● | ◎ | ◎ | | | | |
| 佐々木峰次郎 | | | | | ● | ◎ | ◎ | | | | |
| 松山常次郎 | 豪商 | 協心会長・板屋野木村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | | | |
| 軽 | 葛西利助 | リンゴ園経営 | 稲実村議・県農業部諮問会員 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 高橋半右衛門 | | 金木村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 石岡長幸 | リンゴ園経営 | 長橋村長・県農業部諮問会員 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 米田豊次郎 | 米穀商・醸造業 | 常海橋村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 木村治郎七 | 豪商 | 栄村助役・稲実村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 平山雄太郎 | | 栄村長・稲実村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 長尾常三郎 | | 徴兵参事員 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 鈴木寅之助 | | 梅沢村長 | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| | 郡 | 柴田実 | リンゴ園経営 | 金木村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | |
| | | 加藤定四郎 | | 中里村議 | | | ● | ◎ | ◎ | | |
| 坪田房四郎 | | 協心会幹事・衛生教育会員 | | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| 沢田蔵之助 | | 徴兵参事員 | | | | ● | ◎ | ◎ | | | |
| 菊池九郎 | | 東奥義塾監 | | 大同会員・東日社長・同株主・弘前市長・衆議院議員 | ● | ◎ | ● | ◎ | ◎ | ○ | 学友会員 |

| | 氏名 | 職業 | 役職 | 県有志懇親会参加度 | | | | | | 備考 | |
|------|--------|---------------|--|-----------|---|---|---|---|---|------------------|--|
| | | | | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | |
| 中津 | 榑喜洋芽 | 代言人 | 大同会員・東日常議員・同株主・弘前市議・衆議院議員 | ● | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 学友会員 | |
| | 長尾義連 | | 盈進社長・精英会幹事・弘前市助役・県議 | ● | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | 第2・4・5・9代弘前市長 | |
| | 石郷岡文吉 | | 大同会員・弘前市議・東目屋村長・弘前連合会議員・東洋回天社員 | ● | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 奈良平雄 | | 大同会員・弘前市議・私立産業会市中委員 | ○ | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 木村喜代太郎 | | 東洋回天社総代・壮年会常議員 | ○ | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 関静逸 | | 大同会員・講習館幹事・弘前市議・弘前連合会議員 | ○ | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 藤岡知言 | | 東北15州委員会委員・弘前市徴兵参事員・弘前連合会議員 | ● | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | | |
| | 奈良誠之助 | 牧畜業 | 東洋回天社員・大同会員・盈進社員・壮年会幹事・東北15州委員会委員・弘前市議 | ● | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 鳴海正彦 | | 弘前市議 | ○ | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| | 安藤多一 | 弘前市賦税掛 | | | ◎ | ◎ | ● | ◎ | ○ | | |
| 軽郡 | 本多謙一 | | 大同会員・弘前市議・弘前連合会議員 | | ◎ | ◎ | ● | ◎ | | 改進黨員名簿（M15-17）記載 | |
| | 田中耕一 | | 大同会員・弘前市議・弘前連合会議員 | | ◎ | ◎ | ● | ◎ | | 学友通信発行人兼印刷人 | |
| | 佐藤昇一 | | 盈進社幹事・藤代村議 | ○ | ◎ | | ● | | ○ | | |
| | 佐田正之丞 | 三戸郡教督・弘前市学務掛長 | 弘前市議・弘前教育会員 | | | | ◎ | ● | ◎ | ○ | |
| | 黒滝忠造 | リンゴ園経営 | 弘前市徴兵参事員・私立産業会市中委員・弘前連合会議員 | | ◎ | ◎ | ● | ◎ | | | |
| | 村谷有秀 | | 精英会長・東北15州委員会委員・県議 | ● | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 奈良己三郎 | 弘前市賦税掛 | 精英会商議員 | ○ | | | ● | | ○ | | |
| 南部地方 | 源晟 | 東日編集人 | 土曜会幹事・東日株主・同常議員・八戸町議・町村共有財産処分協議委員 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 旧ギリシア正教伝道士 | |
| | 奈須川光宝 | | 土曜会幹事・東日株主・東北15州委員会委員・八戸町議・衆議院議員 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 旧暢伸社常務・第4代八戸町長 | |
| | 浅水礼次郎 | 馬産業 | 八戸町議・県議・徴兵参事員・町村共有財産処分協議委員 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 旧暢伸社常務・第3代大館村長 | |
| | 関春茂 | 東日編集人 | 土曜会常議員・県議・長橋村長・町村共有財産処分協議委員 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 旧暢伸社常務・第3代湊町長 | |
| | 浅山正美 | 測量士・不動産業 | 八戸町議・県議・徴兵参事員・町村共有財産処分協議委員 | ● | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |

注：●は発起人、◎は賛成員、○は参加者をあらわす。